



ダンボールコンポストの作り方

1. ダンボール箱を組み立てます。



ガムテープで隙間をふさいで、虫の侵入を防ぎます。



2. ダンボール箱の底に、ダンボール箱を敷きます。



底の強度を上げること、水分で底が抜けないようにするため、底の大きさに合ったダンボールを敷きます。

①新聞紙を重ねて入れると、より強度が増し、効果的です。

3. 新聞紙(または使い古しのTシャツ)でカバーを作ります。



虫の侵入を防ぎます。別のダンボールでフタを作って二重にフタをすることでより防ぐことも出来ます。



4. 基材を箱の中に投入します。



もみ殻くん炭とピートモスを7:3の割合で投入します。
投入する量は箱の7分目くらいが目安です。
基材は舞いやすいため、静かに入れます。

基材はホームセンター等で購入可能です。

5. ダンボール箱を設置して、生ごみの投入を開始します。



キャスター付きのすのこなど、通気性の良い台の上に設置します。



◎生ごみ堆肥化スケジュール

約3ヶ月

生ごみ(一口大)を入れて、よく混ぜる。
投入量の目安は1日500g。生ごみの種類により分解の速度は異なります。

約3週間

熟成期間。
週1回、水(約1ℓ)を加えてよく混ぜる。

完成!

堆肥として
利用できます。

堆肥の使い方…土に対して、4分の1程度の割合で使用してください。

◎虫が発生したら?

黒いビニール袋に基材を移し、日当たりがよく温度が上昇する場所(例.コンクリートの上など)で、空気を抜いて天日干しにしてください。熱で多くの虫は死んでしまい、その死がいも分解されます。

分解を促進するためには…？



1. 投入するごみを選ぼう！

分解されやすいもの



ごはん、麺、お菓子、野菜くず、魚のあら、
果物の皮、お茶がら、コーヒーがら など

※高カロリーのものは、
温度を上げ分解を促進します。

分解に時間がかかるもの



卵の殻(細かく砕く)、未加熱の葉野菜・きのこ類、野菜の芯 など

分解されないもの



玉ねぎの皮、トウモロコシの芯、
肉の骨、貝殻、落花生の殻 など

※腐った生ごみ、落ち葉、塩分の強いもの、
果物・野菜の種などは入れないでください。

2. 適切な温度を保とう！

温度が低いと、微生物の活動が弱まり分解が進まなくなるので、なるべく20℃以上を保つようにしましょう。冬場は、ダンボール箱を二重にしたり、毛布で包むなどして温度の調節を行いましょう。

3. 忘れずに混ぜよう！

空気を送り込むことにより、微生物の働きが活性化します。生ごみを入れない日でも、基材をかき混ぜるようにしましょう。※箱を破損しないように注意してください。